

愛知県医師連盟ニュース

発行所
愛知県医師連盟
〒460-0008
名古屋市中区栄4の14の28
愛知県医師会館内
TEL052(251)2500

第23回参議院議員通常選挙の選挙結果について

平成25年7月21日執行の第23回参議院議員通常選挙には、日本医師会副会長羽生田たかし先生が立候補され、見事当選されました。会員のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。今回の選挙戦を検証し、今後の医政活動に生かしたいと思えます。



ご挨拶

愛知県医師連盟委員長
柵木 充明

今年始めに日医副会長羽生田たかし氏を日医連の組織候補としてノミネートしてから約半年間、愛知県医師連盟としても山本副会長を委員長とする選挙対策委員会を組織し、様々な活動を繰り広げて参りました。3年前の前回、6年前の前々回と苦渋をなめ、「今回は絶対負けられない」まさに背水の陣で挑んだ選挙でした。

前2回がいずれも分裂選挙であったのと異なり、今回は日医、医師連盟が一致団結して選挙に臨みました。9年ぶりの選挙でどの程度集票できるのか全く未知数と言わざるを得ません。投票日前に横倉委員長と話したところでは、自民党で第5位以内、得票数で30万を超えれば満足すべき結果といえるだろうし、是非この程度の結果は残したいとの意見で一致しました。

7月21日投票日当日、午後8時からの開票速報で、NHKでいち早く羽生田氏の当確が打たれた時にはホットすると同時に「その票数や如何に」まさしく固唾をのむ思いで最終集計を待ちました。結果は25万票、第6位と西島候補が9年前に獲得したのとほぼ同数の結果でした。この10年の間に様々な政治の動きもあり、医師会員の政治意識も大きく変化したと思われるのに結果的には、何のかんの言ってもこれが医師会の基礎票かと思わざるを得ない結果でした。前回の民主党政権下、組織候補を出すことがかなわなかった参院選を除いて、大きくいえることは、会員あたりの得票数では九州勢が圧倒的に多く、大都市を抱える府県はおしなべて少ないということです。

今回は群馬県で4万と大量得票したように、候補者個人の地縁血縁で各府県により得票数に多少の違いは見られるものの、おしなべて会員当たり多い府県と少ない府県は過去の結果から一定の傾向が見られます。

愛知県は比例代表非拘束になって以来の一万票にあと一息という数字を出すことができました。率直に言えば、選挙直後の感想とし

ては、よく健闘したと思います。

A会員一人あたり6.6票という圧倒的な数字を出した豊川市医師連盟を初めとする各地区連盟会員の先生方のご努力の賜と感謝申し上げます。詳しい分析は選挙対策委員会山本委員長報告にあります。

県内で見ると名古屋が少なく、三河が多いという傾向はおしなべて数回の選挙を通じて変わりません。

3年に1回の参院選比例代表選挙、まさしく医師会の政治力、集票力、団結力、およそ会としての力が問われる選挙であったことは間違いありません。9年ぶりに一応全国の医師連盟が一丸となって戦った選挙でした。思ったのはまさに「ローマは一日にしてならず、しかし一日にして崩れず」でした。

日本全国の都道府県医師会、医師連盟にはそれぞれの選挙に対する会員の考え、取り組み、ノウハウがあるのでしょう。

それぞれ蓄えた伝統の上に集票数字が並ぶのであり、多かれ少なかれ得票数は一朝一夕に積み上がるものではないということです。

3年に一回ということを見ると、医師連盟の集票力の強化、まさに気の遠くなる思いもありますが、参院選は突然と言うことはないので地道に一步一步前に前にと、確実に活動を続けていくしかありません。

医師連盟の基礎票というものも臆気ながら姿を現してきた感じがいたします。医師会単独では不十分なら、他の医療団体との連携、協力も今後の大きな活動の方向性となります。

参院選比例区では他の医療団体もそれぞれ組織候補を擁立していますので、共闘は無理ですが首長、地方選挙、総選挙これらについては、一緒に手を携えて行くことが可能です。三師会の組織票を併せるだけで相当な力になります。これからの選挙活動は多面的、多方向にウイングを広げて対応する必要があると考えているところであります。